

# この子らと

令和6年1月号

## 命輝く子ども

わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男



2024 / 謹賀新年

旧年中は大変お世話になりました  
本年もよろしくお願ひいたします

明けましておめでとうございます。

子どもたちは、お正月(7日まで)を楽しん過ごしていることと思います。



かつては、「凧あげ・コマ回し・福笑い・かるた取り・羽子板等」を近所の空き地や路地で遊んだものですが、鹿児島市の子どもたちは、お部屋でのゲーム遊びが中心だったでしょうか。時代・時代でお正月の風景も変化していきます。



さて、「去年 今年 貫く棒のごとし」と高浜虚子が詠んでいます。確かに12月31日の大晦日、除夜の鐘そしてカウントダウン午前0時から1月1日になり、時は途切れることなく連続しています。

しかし、元旦の初日の出は、その神秘的なたずまいにおもわず手を合わせたくります。そして、初詣に出かけますと「今年こそは」と新たな気持ちになります。とても不思議で嬉しい伝統行事だと思います。



今年一年、皆様方にとりまして良い年となりますことを心から念じております。

一行の 心を詠めし 年賀状	(高浜虚子)
初日の出 しだいに見ゆる雲静か	(正岡子規)
空青き 風聞きながら 雑煮餅	(臼田亜浪)
石段を下るが嬉し 初詣	(山口青邨)

### 七草粥

七草粥は、平安時代に中国から伝わったと言われ、新芽の持つ生命力を体に取り入れる意味で食べたのが由来だそうです。

1月7日の朝に七草粥を食べると一年中病気をしないで、寿命がのびるという言い伝えがあります。

鹿児島では、その年の正月に数え年で7歳になった子どもがお椀を持って近所や親せきに7軒分の七草粥をもらうという儀式があります。

- ① せり
- ② なずな(ぺんぺん草)
- ③ ごぎょう(母子草)
- ④ はこべら
- ⑤ 仏の座
- ⑥ すずな(かぶ)
- ⑦ すずしろ(大根)



### あるお母さんのエッセイ

初めての赤ちゃんに無我夢中だった。ろくに眠らず、夜泣きもひどかった。へとへとに疲れ果てて、抱っこで揺すりながら「あんたは、ママを苦しめたいの?」意地悪を言っていた日々。

赤ん坊の気持ちなんて全然わからない。ただ、もがくだけ。あれから数年たって娘は5歳になった。

「あのね、ママ」(もじもじ)「なあに」「あたしね、ママのこと、生まれた時から好きだったの」・・・

新しい1年が始まりました。  
かけがえのない子どもたちのために保護者のみなさまと手を携えて歩いていけたらと思います。今年もよろしくお願ひ申し上げます。



発表会リハーサル